

令和2年度年報

2021. 3. 31

群馬県立土屋文明記念文学館

2020



目次

1 沿革	
(1)沿革	1
(2)令和2年度の主なできごと	2
2 施設概要	3
3 管理運営	
(1)組織及び職員	3
(2)利用者数	4
(3)歳入歳出(決算)の状況	5
(4)修繕	5
(5)備品	5
4 展示活動	
(1)常設展示	6
(2)企画展示	9
(3)移動展	13
(4)ミニ展示	16
(5)特別展示	16
5 教育普及活動	
(1)企画展関連講演会	17
(2)企画展・特別展関連行事	18
(3)文学講座	19
(4)群馬県文学賞 受賞記念講演会・受賞作品展	19
(5)学校教育との連携	20
(6)地域との連携	21
(7)子ども向け事業	23
(8)ボランティア活動	24
(9)自主学習会	24
(10)広報活動	25
(11)刊行物の発行	28
6 資料収集・調査研究	
(1)資料収集	29
(2)資料の整理・保存管理	29
(3)資料貸出	30
7 利用案内・位置図	
(1)休館日	31
(2)開館時間	31
(3)企画展観覧料	31
(4)施設利用料	31
(5)位置図	32

1 沿革

(1)沿革

1981(昭和56)年	10月	近代文学館設立期成会議を結成
1983(昭和58)年	4月	群馬県教育委員会が昭和58年度予算に文学館建設調査費計上
1985(昭和60)年	12月	近代文学資料等調査検討委員会(20名)を設置
1988(昭和63)年	2月	近代文学資料等調査員(12名)を設置
1990(平成2)年	12月	土屋文明逝去
1991(平成3)年	4月	近代文学資料室を設置
同	7月	土屋文明遺族より群馬町に資料の寄付申込み
同	7月	群馬県生涯学習センター内に土屋文明資料展示室設置
同	11月	群馬町から県に「土屋文明記念館」建設の陳情
1991(平成4)年	4月	群馬町に記念文学館建設調整室設置
1993(平成5)年	1月	建設推進委員会(9名)を設置
同	3月	文学館建設基本構想策定
同	4月	群馬県教育委員会文化振興課に建設準備係(5名)設置
1994(平成6)年	2月	都市計画公園事業の大臣認可
同	3月	建築実施設計
同	4月	文学資料整理作業室を県立図書館内に設置
同	12月	上毛野はにわの里公園占用許可
同	同	建築工事開始
1995(平成7)年	12月	建築工事終了
1996(平成8)年	2月	文学資料の移送搬入
同	3月	展示工事完了
同	4月	群馬県立土屋文明記念文学館設置及び管理に関する条例施行
同	同	群馬県立土屋文明記念文学館組織発足
同	7月	伊藤信吉館長就任(※空白期間は群馬県教育委員会事務局幹部職員が兼務)
同	同	開館
1998(平成10)年	5月	天皇皇后両陛下下行幸啓
1999(平成11)年	8月	『群馬文学全集』全20巻刊行開始(～平成14年度)
2002(平成14)年	8月	伊藤信吉館長死去
2006(平成18)年	7月	開館10周年記念展、「ぐんま文学の森」(12月)ほか
2008(平成20)年	8月	秋篠宮殿下、同妃殿下、眞子内親王行啓
2012(平成24)年	3月	入館者50万人達成
2016(平成28)年	10月	開館20周年記念展「角田柳作とドナルド・キーンー群馬から世界へー」

(2)令和2年度の主なできごと

- 4月1日 新年度開始。小笠原祐治特別館長、佐藤彰宏館長就任。会計年度任用職員スタート
- 4月7日 安倍首相による緊急事態宣言
- 4月20日 2交代制勤務開始
- 5月27日 予約制で開館再開(9:30～16:00 ※ 12:30～13:30消毒のため閉館)
第108回企画展「文学と、草木染とー山崎斌のころざしー」オープン
- 6月20日 整理券配布方式に移行
- 7月12日 未来屋書店高崎店に当館の棚設置
- 7月15日 高崎市立上郊小学校(第4学年)で出前授業実施
- 7月20日 高崎市立上郊小学校(第5学年)で出前授業実施
- 8月8日 特別展「紙芝居がやって来たⅢ」オープン
- 8月9日 展示解説1
- 8月14日 三館スタンプラリー開始(～9月22日)
- 8月26日 公式ホームページにて「特別館長日記」スタート
- 8月29日 展示解説2
- 8月30日 立ち絵紙芝居上演(水出真弓氏、岡部千尋氏)
- 9月2日 燻蒸休館(～9月10日)
- 9月13日 高校生による紙芝居と演奏1
- 9月18日 復刻土屋文明歌集『ふゆくさ+往還集』刊行
- 9月19日 展示解説3
- 9月20日 高校生による紙芝居と演奏2
- 10月9日 「歌人が学校に！～選歌と講評から学ぶ～」実施(講師 今野寿美氏)
- 10月10日 第109回企画展「土屋文明生誕130年没後30年記念展 若き日の土屋文明ーあまた人々の恵みありー」オープン
同 展示解説1、記念短歌募集開始
- 10月18日 ワークショップ「草木染め和紙でオリジナルカードを作ろう」1(講師 山崎梢氏)
- 10月31日 記念講演会「土屋文明と岡井隆」(講師 笹公人氏)
- 11月7日 展示解説2
- 11月15日 ワークショップ「草木染め和紙でオリジナルカードを作ろう」2(講師 山崎梢氏)
- 11月22日 記念講演会「戦後歌壇の牽引者:土屋文明」(講師 永田和宏氏)
- 1月16日 第110回企画展「絲山秋子展ー“土地”で生きる人々を描く」オープン
同 展示解説1
同 高崎市立上郊小学校児童短歌展オープン
- 1月24日 文学講座「高等女学校長としての土屋文明ー教育改革への警鐘ー」(講師 小笠原祐治特別館長)
- 1月31日 記念対談「群馬から文化を発信する」(絲山秋子氏、山重徹夫氏)
- 2月1日 記念短歌募集企画受賞作品展オープン
同 第58回群馬県文学賞受賞作品ミニ展示オープン
- 2月6日 絲山秋子氏による朗読「黒蟹営業所」
- 2月14日 展示解説2
- 2月21日 文学講座「清少納言と紫式部「女性」という生き方の選択」(講師 藤本宗利氏)
- 2月27日 展示解説3
全国文学館協議会共同展示3. 11文学館からのメッセージ「紙芝居『稲むらの火』ー津波から村を守った男ー」オープン
- 3月6日 記念講演会「和解について」(講師 絲山秋子氏)
- 3月14日 文学散歩 絲山秋子氏と文学館周辺を歩く
- 3月24日 ミニ展示「夭折の歌人・澤浦盛衛 没後90年ー写真でみる澤浦盛衛作品ー」オープン

2 施設概要

(1)設置の目的

土屋文明の業績を記念し、文学に関する県民の理解を深め、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する。

(2)設立

- ・平成8年7月11日開館
- ・平成11年6月3日博物館登録

(3)所在地

群馬県高崎市保渡田町 2000 番地(上毛野はにわの里公園内)

(4)設備等

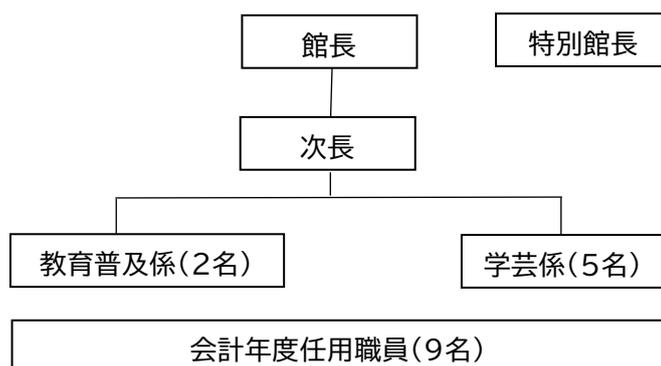
- ・用地面積 2,465.61 m²
- ・建物構造 鉄筋コンクリート造り2階建て
- ・建物面積 延床面積 3,171 m²
- ・主要施設 常設展示室(396.8 m²)、企画展示室(279.5 m²)、映像展示室(65.9 m²)
閲覧室(62.1 m²)、研修室(289.1 m²)、創作室(和室)(43.6 m²)
収蔵庫(152.2 m²)、書庫(222.3 m²)、レストラン、ミュージアムショップ
- ・建設費 約27億円
- ・駐車場 普通車50台、大型バス5台、身障者用2台

3 管理運営

(1)組織及び職員

令和2年4月1日の地方自治法及び地方公務員法改正により従前の「館長(非常勤)」を、地方公務員法第3条第3項第3号の特別職非常勤職員(専門知識・経験に基づく助言を行う職)としての「特別館長」に名称変更した。

※ 従前の「副館長」を館運営のマネジメント職としての「館長(常勤)」に名称変更した。



(2)利用者数

① 入館者数

区分	有料観覧者										無料観覧者						観覧者 合計	入館者 その他	企画展 関連 (内数)	入館者 総数	企画展 関連 (内数)	
	一般(個人)		大高(個人)		一般(団体)		大高(団体)		共通 バス	小計	中学 以下	障害者	減免	引率 介護	招待	小計						
	通常	割引	通常	割引																		
展覧会等 常設展示及び企画展等 年間開館日数246日間	1,834	504	95	0					53	2,486	305	165	1,025	97	1,110	2,702	5,188	17,849	465	23,037	5,325	
企画展 の 状 況	第108回企画展 文学と、草木染とー 山崎城のころざしー 4/11~6/7 57日間	318	150	9	0	0	0	0	0	13	490	21	20	0	14	194	249	739	986	0	1,725	739
	特別展 紙芝居がやって来 たⅢ 8/8~8/31 9/11~9/22 33日間	352	73	19	1	0	0	0	0	11	456	91	29	0	17	145	282	738	520	142	1,258	880
	第109回企画展 土屋文明生誕130 年没後30年記念展 若き日の土屋文明 ーあまた人々の恵 みありー 10/10~12/20 61日間	397	119	19	0	0	0	0	0	12	547	688	42	353	21	402	1,506	2,053	4,913	143	6,966	2,196
	第110回企画展 絲山秋子展 ー“土地”で生きる 人々を描く 1/16~3/14 50日間	593	123	29	0	0	0	0	0	14	759	113	61	0	27	366	567	1,326	836	184	2,162	1,510

② 閲覧室利用者

書庫資料閲覧		複写		調査相談件数			閲覧室利用者数
人数	冊数	件数	枚数	口頭	電話	文書	
20	105	11	144	0	0	0	155

③ レファレンス

レファレンス件数	うち土屋文明について
23件	9件

④ 貸室等利用者 ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用休止

企画展示室		研修室		和室		総計	
件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数
—	—	—	—	—	—	—	—

⑤ ホームページアクセス数

年間アクセス件数	一日平均アクセス件数
32,000 件	87 件

(3) 歳入歳出(決算)の状況

(単位:千円)

区分	金額	内容
歳入	2,339	
観覧料	805	
施設使用料	660	レストラン、研修室等
施設使用光熱水費	328	レストラン
その他	546	書籍販売等
歳出	61,832	
管理運営	41,233	文学館の維持管理
資料展示	9,402	常設展示メンテナンス、企画展示
資料購入	645	
資料管理	9,250	資料保存、情報システム
教育普及活動	1,302	文学講座等教育普及事業

(4) 修繕

修繕項目	工期
空調ダンパ交換工事	8/7~9/30
消防設備メインゲートバルブ・呼水槽逆止弁改修工事	9/25~11/30
書庫 PAC エアコン湿度制御変更工事	9/30~12/30
展示ホール階段手すり工事	9/25~11/30
ブロワ室排気ファン故障修繕	(令和3年)1/22~3/15

(5) 備品

主な購入備品なし

購入資料については別記(6.(1)資料収集 参照)

4 展示活動

(1)常設展示

常設展示室では、歌人・土屋文明(1890-1990)の作品と生涯を紹介し、中央の「三十六歌人」コーナーでは、万葉集以来の短歌史を彩る歌人たちの歌を表現した人形を通して味わい、『万葉集』『古今集』『新古今集』をはじめとした資料により和歌・短歌の世界に触れることができる。

① 土屋文明—その作品と生涯—

文明の作品と生涯をたどる6章で構成されている。

◇ 第1章 榛名山のふもとで育つ『アカネ』への投稿

土屋文明は、現在の高崎市保渡田町に生まれ、伯父夫妻に預けられて育ち、上郊尋常小学校から旧制高崎中学校に進学。蛇床子じゃしょうしの名で短歌を発表し同校の国漢教師・村上成之しげゆき へいぎよ(蛎魚かみさと)の紹介で、伊藤左千夫を頼って1909(明治42)年4月に上京した。

◇ 第2章 東京から長野へ—短歌と小説と教職と—

上京した年の秋、文明は旧制第一高等学校に入学し、東京帝国大学哲学科に進学後は、山本有三、芥川龍之介、菊池寛などの若き文豪たちと交流し井出説太郎の名で小説も発表した。東京帝国大学を卒業後、1918(大正7)年、島木赤彦の推薦で諏訪高等女学校に赴任、教育者として長野県の諏訪・松本で6年の歳月を過ごした。その後、上京して、1925(大正14)年には第一歌集『ふゆくさ』を出版した。

◇ 第3章 歌壇の中核に—写生、破調、思想的抒情詩—

1930(昭和5)年3月、斎藤茂吉に代わり『アララギ』の編集発行人となり、選歌、校正、雑誌の発送、面会による歌稿の添削、歌評会の設定など精力的に会員を導いた。一方、工場や鉄道などの近代的風物を、極端な字余り、破調で表現するなどを試み、代表作の一つである第三歌集『山谷集』を出版する。

◇ 第4章 万葉集研究の継続—自らの足で感じる—

万葉集研究は、『古今和歌集』を攻撃して『万葉集』を賞揚した正岡子規の流れを汲む短歌結社「アララギ」に引き継がれる重要テーマであり、文明は戦中から戦後にかけて万葉ゆかりの地をよく歩き、その成果は4,500首以上ある『万葉集』の全歌注釈である『万葉集私注』(全20巻、1949-1956年)に結実した。

◇ 第5章 川戸への疎開—敗戦と第二芸術論に抗して—

空襲で青山南町(現・東京都港区南青山)の家を焼失した文明は、1945(昭和20)年6月、吾妻郡原

町川戸(現・東吾妻町)に疎開した。敗戦後の虚無感や、俳句・短歌を芸術以下の「第二芸術」と貶める論調に抗し、短歌や言葉の重要性を擁護する力強い作品を生み出す。自給自足の生活を送りながら、川戸を起点として『アララギ』の復興、地方アララギ誌の創刊などに力を注いだ。

◇ 第6章 東京南青山での日々ー歌壇の最長老にー

1951(昭和26)年11月、疎開地から南青山に戻ってきた文明は、1953(昭和28)年に宮中歌会始の選者となり、『万葉集私注』で芸術院賞を受賞。晩年まで、作歌はもちろん『アララギ』や新聞の選歌にも力を注ぎ、96歳で文化勲章を受章、1990(平成2)年、満100歳で歌に捧げたその生涯を閉じた。

☆ 移築書斎

新居の設計は弟子の歌人で清水建設の設計技師であった近藤芳美が行った。引戸がついた書棚や辞書類を広げるための出窓があり、隣接するサンルームから橙や方竹、川戸の山から移し植えた木などがある庭への出入りが可能であった。当館常設展示室内には、移築した書斎とサンルームが、外光を取り込む形で復元されている。

☆ 方竹の庭

移築書斎の窓の外には、南青山の文明旧宅から24種43本の樹木が当時の配置を参考にして移植され、文明の長女・草子かやこがこれを「方竹の庭」と名付けた。方竹とは、四角に近い断面を持つ竹、シホウチクのことである。

② 「三十六歌人」コーナー

常設展示室の中央部を取り囲む柱には、中学校、高校の教科書をベースにして当館が独自に選んだ「三十六歌人」の人形が埋め込まれ、それぞれ1首ずつの短歌を紹介している。

中央のケースには、三大歌集(『万葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』)から現代短歌に至るまでの資料を展示している。

【資料点数】

200点

(①第1章15点、第2章29点、第3章26点、第4章24点、第5章29点、第6章26点、②51点)

※ 陶板画、書斎の遺品は含まず

③ 映像展示室

1階ロビーの映像展示室では、6つのテーマから選んでビデオ映像を見ることができる。

- ・「万葉集 東歌紀行」(約 8 分)
- ・「土屋文明 ひととなり」(約 11 分)
- ・「短歌の世界 詠み継がれる歌ごころ」(約 11 分)
- ・「^{いのち}生命の讃歌－山村暮鳥・その詩と生涯－」(約 24 分)
- ・「文学の広場－群馬県立土屋文明記念文学館－」(約 14 分)
- ・「ぶらり散策－文明と暮鳥－」(約 13 分)

※ 本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用中止。

④ 映像モニターの設置

1階ロビーに映像展示室のテレビモニターを移動し、主に土屋文明関連トピックスを取り上げた「特別館長日記」を常時上映した。

2月1日～28日の記念短歌募集企画受賞作品展期間中は、メロディー賞受賞作品の曲にイメージ画をあわせた動画を常時上映した。

⑤ 文学者の筆跡

1階ロビーのタッチパネルで群馬県ゆかりの文学者の直筆原稿や色紙、短冊などを見ることができる。

- ・村上鬼城(1865－1938 俳人)・田山花袋(1872－1930 小説家)・山村暮鳥(1884－1924 詩人)
- ・萩原朔太郎(1886－1942 詩人)・大手拓次(1887－1934 詩人)・土屋文明(1890－1990 歌人)
- ・高橋元吉(1893－1965 詩人)・萩原恭次郎(1899－1938 詩人)・吉野秀雄(1902－1967 歌人)
- ・伊藤信吉(1906－2002 詩人)

※ 本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用中止。

(2)企画展示

① 第108回企画展「文学と、草木染と—山崎斌のころざし—」

◇ 期間:令和2年5月27日(水)~7月31日(金) (開催日数57日)

(4月11日(土)~6月7日(日)のところ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため会期変更)

◇ 趣旨・内容

山崎斌(やまざき あきら 1892-1972)は長野県に生まれ、十代の頃若山牧水に出会い交流を重ねた。大正10(1921)年に小説『二年間』を刊行、島崎藤村の称賛を受け、以後小説家として活躍した。その一方で、山崎は郷里を襲った養蚕不況対策にも立ち上がる。草根木皮による染を「草木染」と命名、手織物や手漉和紙とともに、その復興や普及事業に尽力した。他にも、生活文化雑誌『月明』を主宰、衣食住の記事に加え文学者の随筆や詩歌も掲載するなど、そのころざしに貫かれた活動は多岐にわたった。本展では、山崎斌の文学者としての活躍および牧水・藤村らとの交流を辿るとともに、生涯をかけて取り組んだ生活文化に関わる活動を紹介した。また、そのころざしを継ぐ者たちとして、斌の息子で群馬県指定重要無形文化財保持者の認定を受けた山崎青樹^{せいじゆ}、そして青樹の息子の和樹^{たてのこ}、樹彦の作品も展示した。

◇ 展示構成

1.文学をころざして

山崎斌と若山牧水

山崎斌と島崎藤村

2.「草木染」命名と月明運動

3.ころざしを継ぐ者たち

◇ 展示資料点数:約110点

◇ 主な展示資料

- ・若山牧水書簡山崎斌宛(臼井家蔵、山崎和樹氏蔵)
- ・島崎藤村書幅「簡素」(藤村記念館蔵)
- ・雑誌『月明』
- ・山崎斌『日本固有草木染色譜』
- ・山崎青樹着物「燕子花」(高崎市染料植物園蔵)



② 特別展「紙芝居がやって来たⅢ」

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大のため「宮沢賢治展」を変更して開催

◇ 期間:令和2年8月8日(土)～8月31日(月)

9月11日(金)～9月22日(火) (開催日数33日)

◇ 趣旨・内容

紙芝居は、昭和初期に登場した日本特有の文化財である。本展では、「黄金バット」「鞍馬天狗」などの最初期の街頭紙芝居から教育紙芝居、外国人作家による紙芝居など様々な紙芝居とその歴史を紹介した。

◇ 展示構成

- 1.「写し絵」から「立ち絵」へー紙人形芝居の登場ー
- 2.街頭紙芝居ー「平絵」紙芝居の出現ー
- 3.宗教紙芝居ー教育紙芝居の始発ー
- 4.幼稚園紙芝居ー幼児教育を目的としてー
- 5.国策紙芝居ー戦時中の紙芝居ー
- 6.戦後民主主義ー色彩を取り戻した紙芝居ー
- 7.「黄金バット」再びー街頭紙芝居の復活ー
- 8.世界へ羽ばたけー日本生まれの文化財ー

◇ 展示資料点数:約60点

◇ 主な展示資料

- ・幻灯機用ガラス絵
- ・カガミ式立ち絵舞台
- ・紙芝居「鞍馬天狗」「蛇男」
- ・紙芝居「少年ダビデ」「イエス伝」
- ・紙芝居「朝日ニュース紙芝居」「市民生活新体制運動 心構への新体制」
- ・紙芝居「クフシフ」「勤王南部一族」「軍神の母」
- ・紙芝居「群馬県選挙肅正運動」
- ・紙芝居「母よいづこ」「元気になった繁君ー峠のつづきー」「きれいな虹の下」
- ・紙芝居「赤城嵐」
- ・紙芝居「太陽はどこからでるの」



③ 第 109 回企画展 土屋文明生誕 130 年没後 30 年記念展 「若き日の土屋文明—あまた人々の恵みあり—」

◇ 期間:令和 2 年 10 月 10 日(土)~12 月 20 日(日) (開催日数 61 日)

◇ 趣旨・内容

明治、大正、昭和、平成を生きた近現代日本の代表的歌人・土屋文明は、平成 2 (1990) 年 12 月 8 日に 100 年という長い生涯を閉じた。文明の師である伊藤左千夫は正岡子規に師事し、明治 41 (1908) 年 10 月『阿羅々木』(のちに『アララギ』)を創刊。島木赤彦、斎藤茂吉など多くの歌人が結集し、短歌結社アララギは大正中期から歌壇の主流となった。左千夫以後、『アララギ』の編集発行人は古泉千樫、斎藤茂吉、島木赤彦、再び茂吉そして土屋文明へと受け継がれ、文明は指導者的存在としてアララギを牽引し続けた。

本展では、若き日の土屋文明に焦点を当て、伊藤左千夫、島木赤彦、斎藤茂吉との交流や作品等を紹介した。

また、特別企画として、現在活躍する 27 名の歌人の方々に土屋文明の秀歌を選んでいただき、現代歌人の目に映る土屋文明短歌の魅力を紹介した。

◇ 展示構成

- I. 幼き日
- II. 上京
- III. 信濃へ
- IV. 『ふゆくさ』の頃

現代歌人 27 人が選ぶ土屋文明短歌

◇ 展示資料点数:約 120 点

◇ 主な展示資料

- ・土屋文明書簡 赤木格堂宛
- ・斎藤茂吉書簡 伊藤左千夫宛
- ・アララギ六歌人六曲半双屏風(諏訪湖博物館・赤彦記念館)
- ・平福百穂画「伊藤左千夫臨終画」(諏訪湖博物館・赤彦記念館)



④ 第110回企画展「絲山秋子展—“土地”で生きる人々を描く」

◇ 期間:令和3年1月16日(土)~3月14日(日) (開催日数 50日)

◇ 趣旨・内容

2003年『イツ・オンリー・トーク』で文学界新人賞を受賞してデビュー、2004年『袋小路の男』で川端康成文学賞、2006年『沖で待つ』で芥川賞を受賞した絲山秋子。2006年に群馬県高崎市に移住、その後も数々の作品を発表し、2016年には群馬を舞台にした『薄情』で谷崎潤一郎賞を受賞、現代の日本を代表する作家として活躍している。

本展では、自筆書簡をはじめ、自筆資料や所蔵品等を展示し、土地で生きる人々を描く絲山秋子の軌跡と幅広い活動を紹介した。ロングインタビュー「絲山秋子氏に聞きたい10の質問」や初出し写真を展示。魅力に満ちあふれた上質な絲山文学を紹介する企画展となった。

◇ 展示構成

I.作家・絲山秋子

II.絲山秋子作品ガイド

- 1.群馬を描く
- 2.ロード小説—地方を描く
- 3.会社員小説
- 4.距離感
- 5.神様・異世界

III.絲山秋子の活動

- 1.#公開書簡フェア
- 2.ラジオパーソナリティ／新聞連載
／大学教員／絲山房

◇ 展示資料点数:約150点

◇ 主な展示資料

- ・創作ノート(絲山秋子氏蔵)
- ・書店員との往復書簡(絲山秋子氏蔵)
- ・執筆資料(絲山秋子氏蔵)
- ・著書



(3)移動展

当館の展示資料を利用して、市町村、市町村施設(図書館、公民館等)、大学、学校等が主催し、当館が共催して移動展を開催した。

① 展示内容一覧(資料点数)

展 示 名	展 示 内 容	資料点数
A.夢みる女性誌	本展では、明治から昭和30年代までの女性誌の変遷を通じて、女性誌のあり方、求められた女性の生き方などを紹介。	・雑誌と付録 242 点 ・パネル、バナー A3～B5判 42 点
B.ぐんま文学の森	群馬県は、詩・短歌・俳句・小説など、ジャンルを問わず優れた文学者が生まれ、育ち、生活した土地柄。また、多くの文学者が訪れて優れた作品を残した。本展では、明治から現代までの群馬ゆかりの文学者 100 余名を、書籍や雑誌等の資料とともに紹介。	・約 150 点
C.紙芝居	紙芝居は、昭和5年頃に「黄金バット」「鞍馬天狗」などの街頭紙芝居として登場した日本特有の文化財。本展では、紙芝居のルーツを辿り、街頭紙芝居から教育紙芝居、外国人向け紙芝居など様々な紙芝居とその歴史を紹介。	・約 100 点
D.群馬の詩人	群馬県は、多くの近代詩人を輩出した土地柄として全国に知られている。本展では、湯浅半月、萩原朔太郎、大手拓次、山村暮鳥、萩原恭次郎ら51人の詩人について紹介。	・約 100 点 ・51 人×2枚 ・パネル100cm×90 cm
E.風の詩人 伊藤信吉	伊藤信吉(1906-2002)は、前橋に生まれ89歳で当館開館時館長に就任。萩原朔太郎や室生犀星に師事。『島崎藤村の文学』を皮切りに近代文学の評論で地歩を固め、多くの全集編纂にも携わり、現代の文学に大きな影響を与え続けている伊藤信吉について3つのコーナーに分け紹介。	・約 200 点
F.山村暮鳥 真実に生きようとするもの	「いちめんのなのはな」のフレーズを繰り返す「風景 純銀もざい く」や「雲」の詩などで知られる詩人・山村暮鳥(1884-1924)は、現在の群馬県高崎市に生まれた。病と貧困に苦しみながらも、真実に生きることを求め続けた山村暮鳥について紹介。	・約 120 点
G.方言の豊穡、文学の実感	本展では方言の歴史を辿るとともに、文学作品に表れた方言に焦点を当て、作家と方言の関わりや、方言がどのようにその作品に効果をもたらしているかなどを紹介。特に、方言について造詣の	・約 100 点

	深かった、詩人で評論家の伊藤信吉の作品を中心に、方言が織りなす文学世界の魅力に迫る。	
H. 詩人 大手拓次 孤の箱のなかから	群馬県安中市磯部出身の大手拓次(1887-1934)は、大学時代、フランス象徴詩との出会いを経て自らの詩論を確立。その口語による象徴詩は北原白秋や萩原朔太郎から高く評価された。孤独に、そして一途に最上の詩を求め続けたその詩業を紹介。	・約 100 点
I. 文学者の書一筆に込められた思い	文学者それぞれの書への向き合い方や、周囲からの評価などとともに、各人がしたための短歌・俳句等の作品や書簡などを紹介することで、文学者の書の魅力に多面的に迫る。	・約 90 点
J. パネル いのちのえほん	平成13年に群馬県で開催された第16回国民文化祭の事業の1つとして詩画集『いのちのえほん』が発行された。特別支援学校に通う児童生徒が描いた絵画に、松谷みよ子や永六輔ら著名人が詩やエッセイを寄せ、作品が収録された。本展では、これら全作品を印刷パネルにして紹介。	・パネル 122 点 ・パネルサイズ 22cm×60cm ・アルミ枠額装済
K. パネル 童謡のふるさと 石原和三郎の世界	本展では、「うさぎとかめ」「はなさかじじい」などの作詞で知られる勢多郡花輪村(現・みどり市)出身の石原和三郎を取り上げ、その多岐にわたる業績と生涯を豊富な写真と解説文(読みがな付)で紹介。	・B2パネル 19 点 ・アルミ枠額装済
L. パネル 夭折の詩人 長澤延子 と中沢清	17歳と22歳という若さで亡くなった群馬県出身の2人の詩人、長澤延子(1932-1949)と中沢清(1932-1956)を取り上げる。昭和20年代に青春を過ごした2人は、それぞれ人生に真剣に向き合い、優れた詩を残した。本展では、2人の詩と人生を自筆資料(複製)を交えて紹介。	・B2パネル 12 点 ・アルミ枠額装済 ・原稿ノートの複製資料、約 30 点
M. パネル 襄と八重の上州	「上毛かるた」でおなじみの新島襄(安中藩出身)とその妻・八重の群馬との関わりや、襄の精神を受け継いで各分野で活躍した人々(湯浅治郎、柏木義円、湯浅半月等)の業績を紹介。	・B2パネル 20 点 ・アルミ枠額装済
N. パネル 文学者の書一筆に込められた思い	文学者それぞれの書への向き合い方や、周囲からの評価などとともに、各人がしたための短歌・俳句等の作品や書簡などを紹介することで、文学者の書の魅力に多面的に迫る。	・B2パネル 25 点 ・アルミ枠額装済 ・紐付き

※ J～Nのパネル展は、学校・図書館等の一般施設でも展示できるよう工夫した。壁面展示に最適

※ A・E・I・J・N は分割展示可能

※ D はパネルのみの展示も可

② 開催実績

展示名	開催期間	展示会場(施設名)	入場者数
夢みる女性誌	中止※	長野原町教育委員会	—
群馬の詩人	中止※	みどり市多世代交流館	—
いのちのえほん	6/23~7/17	前橋市桂萱公民館	530名
文学者の書	8/1~9/20	群馬県立高崎高等学校	916名
紙芝居	8/1~9/22	徳富蘆花記念文学館	622名
文学者の書	9/7~9/23	群馬県立前橋女子高等学校	901名
夢みる女性誌	10/1~11/23	徳富蘆花記念文学館	630名
いのちのえほん	中止※	みどり市多世代交流館	—
土屋文明	10/16~11/20	群馬県庁県民センター	3,125名
文学者の書	10/23~12/4	群馬県立沼田女子高等学校	440名
文学者の書	12/11~1/17	太田市学習文化センター	184名
文学者の書	1/29~3/24	福井県ふるさと文学館	7,435名
渡辺啓助顕彰展	3/8~3/26	渋川市役所	403名
土屋文明 作品と生涯	3/8~3/30	群馬県庁舎31階物産展示室	368名
合計			15,554名

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止。



「土屋文明 作品と生涯」群馬県庁舎31階物産展示室

(4)ミニ展示

所蔵資料等を活用して、折々の話題に合わせたテーマの展示を行った。

展示名	開催期間	内容	点数
新収蔵資料特別公開	6/13～7/19	上毛新聞でとりあげられ話題となった高柳重信と萩原朔太郎の新収蔵資料を公開した。	7点
靴屋探索プロジェクト	10/10～12/20	土屋文明生誕130年没後30年記念展の関連で、土屋文明が歌に詠んだ靴屋を探しその調査結果をパネル展示した。	4点
高崎市立上郊小学校 児童短歌展	1/16～2/14	上郊小児童93名が詠んだ短歌を短冊に書いてもらい模造紙に貼り展示した。	93点
記念短歌募集企画 受賞作品展	2/1～2/28	土屋文明生誕130年没後30年記念展の関連イベントとして募集した短歌の受賞作品(色紙賞:絵入り色紙、メロディー賞:曲入り映像)を展示した。	17点
群馬県文学賞受賞作品展	2/1～2/23	令和2年度第58回群馬県文学賞受賞者5名の短冊・図書・雑誌・作品パネル等を展示した。	19点
全国文学館協議会 2020年度 共同展示 紙芝居『稻むらの火』 ー津波から村を守った男ー	2/27～3/21	幕末の大地震の津波に際して村人を救った人物を描いた紙芝居『稻むらの火』を、パネルや資料で紹介した。	12点
夭折の歌人・澤浦盛衛 没後 90年ー写真でみる澤浦盛衛作 品ー	3/24～ (令和3年)4/11	伊勢崎市出身で島木赤彦に師事、31歳で夭折したアララギ歌人の作品を資料と岡村文夫氏の写真パネルで紹介した。	23点

(5)特別展示

展示名	開催期間	内容	点数
期間限定特別展示	10/10～12/20	雁部貞夫氏が所蔵する土屋文明折帖「金剛山五十首」を期間限定で常設展示室「テーマ展示」コーナーに展示した。館蔵の掲載誌もあわせて展示した。	7点

5 教育普及活動

(1)企画展関連講演会

企画展名	開催日	演題・講師	受講者
第108回企画展 「文学と、草木染とー山崎斌のこころざしー」	5/17(日) 中止※	「島崎藤村と山崎斌」 下山嬢子氏(大東文化大学名誉教授)	—
	5/24(日) 中止※	「草木染の命名者 山崎斌の生活文化運動」 山崎和樹氏(草木染研究家・染色工芸家)	—
第109回企画展 土屋文明生誕 130 年没後 30 年 記念展「若き日の土屋文明ーあまた人々の恵みありー」	10/31(土)	「土屋文明と岡井隆」 笹公人氏(歌人)	60名
	11/22(日)	「戦後歌壇の牽引者:土屋文明」 永田和宏氏(歌人、JT 生命誌研究館館長)	74名
第110回企画展 「絲山秋子展ー“土地”で生きる人々を描く」	3/6(土)	「和解について」 絲山秋子氏(作家)	52名
合計			186名

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止。



笹公人氏 10月31日



永田和宏氏 11月22日



絲山秋子氏 3月6日

(2)企画展・特別展関連行事

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各回とも定員を減らして開催した。

企画展名	開催日	行事名・講師名等	受講者数
第108回企画展 「文学と、草木染とー山崎斌のこころざしー」	4/19(日) ※ 中止	「卓上織機デモンストレーション・織り体験」 桐生工業高校染織デザイン科生徒	—
	5/3(日)、 5/4(月・祝) ※ 延期	「草木染和紙でグリーティングカードをつくろう」 山崎梢氏(有限会社草木屋)	—
特別展 「紙芝居がやって来たⅢ」	8/30(日)	「立ち絵紙芝居上演」 水出真弓氏、岡部千尋氏(紙芝居だいすきプロジェクト紙芝居のたね)	42名
	9/13(日)、 9/20(日)	高校生による紙芝居と演奏 高崎女子高校 放送部・マンドリン部	28名 33名
第109回企画展 土屋文明生誕130年没後30年 記念展「若き日の土屋文明ーあ また人々の恵みありー」	10/18(日)、	「草木染和紙でオリジナルカードを作ろう」 山崎梢氏(有限会社草木屋)	24名
	11/15(日)		17名
第110回企画展 「絲山秋子展ー“土地”で生き る人々を描く」	1/31(日)	記念対談「群馬から文化を発信する」 絲山秋子氏、山重徹夫氏(中之条ビエンナーレ総合ディレクター)	56名
	2/6(土)	朗読会 絲山秋子氏による朗読「黒蟹営業所」	55名
	3/14(日)	文学散歩 絲山秋子氏と文学館周辺を歩く	52名
合計			307名

(3)文学講座

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、回数、定員を減らして開催した。

演題と講師	開催日	内容	受講者
「高等女学校長としての土屋文明」 小笠原祐治氏(当館特別館長)	1/24(日)	土屋文明生誕130年・没後30年記念イヤーの締めくくりとして、自身も長く教育に携わった、当館特別館長の小笠原が、高等女学校長時代の文明と、その教育について語った。	34名
「清少納言と紫式部 「女性」という 生き方の選択」 藤本宗利氏(群馬大学共同教育学部 国語専攻教授)	2/21(日)	県内外の各講座で大人気の、群馬大学・藤本先生が、満を持して県立文学館に！紫式部と清少納言の、宮廷人として、キャリアとしての生き方をテーマに、装束着用で講義された。	67名
合計			101名



小笠原祐治氏 1月24日



藤本宗利氏 2月21日

(4)群馬県文学賞受賞記念講演会・受賞作品展

「群馬文学賞」は、群馬県における文学活動の振興を図るため、1年間の文学各部門の創作活動の中から、特に優れた作品を選奨している。当館では受賞記念講演会と受賞作品のミニ展示を行った。

◇ 受賞記念講演会

令和2年度第58回群馬県文学賞受賞者7名のうち5名が下記のとおり講演した。

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各回とも定員を減らして開催した。

受賞者	受賞作品と演題	開催日	受講者
[短歌] 濱野シズエ氏	受賞作品「係累」(30首) 演題「短歌を詠むよろこび」	2/11 (木・祝)	40名
[俳句] 杉山加織氏	受賞作品「回路」(30句) 演題「俳に遊ぶ」		
[小説] 佐藤利正氏	受賞作品「カウンセリング」 演題「“僕”が伝えなかったこと」		
[評論] 中島清氏氏	受賞作品「田山花袋の弟子 水野仙子」 演題「田山花袋の弟子 水野仙子」		
[随筆] 山崎佳隆氏	受賞作品「宝川の三年」 演題「その名、とろかし草ともいう」		

◇ 受賞作品展

展示名	開催期間	内容	点数
第58回 群馬県文学賞受賞作品展	2/1～2/23	受賞者5名の短冊・図書・雑誌・作品パネル等を展示した。	19点

(5) 学校教育との連携

① 短歌教室

◇ 当館作成の副読本を使った短歌教室

実施なし(新型コロナウイルス感染防止対策で「歌人が学校に！」のチラシ配布を行わなかったため、副読本配布についても周知せず)。

◇ 短歌教室

著名な歌人を招き、学校で短歌についての授業を行う事業。本年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、全県への周知は行わず、本事業開始時から毎年実施している上郊小学校に問い合わせたところ、開催を希望したため実施した。

学校名及び講師とテーマ	学年	開催日	クラス	児童数
高崎市立上郊小学校 今野寿美氏 「歌人が学校に！～選歌と講評から学ぶ～」	4学年	10/9	2 学級合同	41名
	5学年		2 学級合同	52名
合計				93名

② 児童生徒の短歌展

本年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため全県下の小中高児童生徒対象の「短歌教室」が実施されなかったため、上郊小学校児童作品のみでの開催となった。

事業名	開催期間	内容	作品数
高崎市立上郊小学校児童短歌展	1/16 ~2/14	上郊小児童93名が詠んだ短歌を短冊に書いてもらい模造紙に貼り展示した。	93点

③ 学校団体等の受入

新型コロナウイルス感染防止のため、修学旅行の行先変更を行った学校6校が当館を見学場所を選んだため、例年より受入校が増えた。

区分	校数	人数	引率者
小学校(伊勢崎市)	2校	170名	13名
中学校(前橋市、高崎市、伊勢崎市、富岡市)	4校	265名	19名
高等学校(高崎市)	1校	240名	15名
短期大学(前橋市)	1校	9名	1名
合計	7校	684名	48名

④ 高崎市立上郊小学校との連携

例年は上郊小学校児童が当館に来館した際に短歌の講義をしていたが、本年度は新型コロナウイルス感染防止対策で来館を取りやめたため、当館職員2名が学校に出向き、各クラス1時間ずつ、土屋文明・文学館・短歌の作り方等についての授業を行った。

開催日	実施内容	実施場所	学年	参加者数
7/15	学校で短歌の授業を実施	上郊小学校	4学年	41名
7/20	学校で短歌の授業を実施	上郊小学校	5学年	52名
合計				93名

(6) 地域との連携

高崎北部地区三館(かみつけの里博物館(高崎市立)、日本絹の里(県立)、土屋文明記念文学館)と連携。「はにわとシルクと文学の高崎北ミュージアムトライアングル」として三館イベントカレンダーを作成しロビーに掲示、三館スタンプラリー、相互見学会(2回)、などを実施した。

また、日本絹の里及び土屋文明記念文学館において、相互の観覧料2割引券を発行した。

◇ 三館スタンプラリー

8月14日～9月22日で実施。3館を観覧した方に景品として、3館の招待状、エコバッグを贈呈した。

◇ 三館連絡会議の開催状況

開催日	議題	会場
8/3	・令和2年度事業報告 ・令和2年度事業計画案	当館
3/29	・令和2年度事業報告 ・令和2年度事業計画案	(書面回議で開催)

◇ 高崎市文化協会群馬支部との連携

イベント名及び開催日	内容等	入場者数
暮鳥・文明まつり 12/6	例年当館が会場となっていたが、本年度は高崎市市民活動センターソシアスにて開催。 今年のテーマは「友」。テーマに合わせた山村暮鳥の詩、土屋文明の短歌を当館職員が選び、『入賞作品集』に解説文を執筆。当日は会場で特別館長があいさつをした。	—

◇ 地域のイベントへの参加

イベント名及び開催日	内容等	入場者数
ぐんま「はにわの里」夏まつり 8/23(中止)	例年、ワークショップ等で参加するが本年度は中止	—
かみつけの里古墳祭り 10月(中止)	例年、ワークショップ等で参加するが本年度は中止	—

◇ 高崎市染料植物園との連携

第108回企画展「文学と、草木染と—山崎斌のころざし—」(4/11～6/7→5/27～7/31)と同時期に「草木染の道—昭和・平成・令和・その先へ—」(4/24～6/7→7/26)を開催した高崎市染料植物園と「コラボ割」を実施。会期中、どちらかの企画展鑑賞券半券をお持ちの方は、もう一方の企画展が2割引で観覧できるようにした。受付では当館から高崎市染料植物園への案内函などを用意し対応した。

・観覧者：739名(うち相互割引制度利用者32名 全体の4%)

- ・高崎市染料植物園観覧時に相互割引制度を知って、当館に来館されたという方が多くみられた。
- ・「相互割引がなかったら来館しなかった」という方の割合も高く、制度の効果があったと言える。

企画展名	開催期間	利用者
第108回企画展 「文学と、草木染とー山崎斌のころざしー」	4/11～6/7→5/27～7/31	32名

(7)子ども向け事業

① 文学クイズ

1階ロビーに設置された文学クイズは、レベル(初級・上級)のほか、プレイモードを1人または2人での対戦から選んで挑戦できる。所定の点数をクリアすると名前と点数が印字された賞状をもらえる。

※ 本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用中止。

② 絵本のひろば

1階ロビーに設置された絵本コーナーは、カーペット敷の床に木製のテーブルとベンチが設置されており、絵本に囲まれた空間で、靴をぬいで絵本を読むことができる。

※ 本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用中止。

③ なつやすみ おはなしのへや

小中学校等の夏休みにあわせて、紙芝居の上演や絵本の読み聞かせを実施した。

開催期間	内容	入場者数
8/1～8/23	ボランティアによる紙芝居の上演、絵本の読み聞かせ、民話の語りなどを2階研修室又は和室で行った。 実演10団体、のべ回数15回(8/22 中止)	111名

④ なつやすみミニシアター

小中学校等の夏休みにあわせて、アニメ等を上映した。

開催期間	内容	入場者数
8/1～8/23	アニメなどのDVDを1階映像展示室で上映した。	179名

⑤展示関連

特別展「紙芝居がやって来たⅢ」では展示を観ると解けるクロスワードクイズを作成した。

(8) ボランティア活動

① 活動分野

- ・ミュージアムショップ……ミュージアムショップの運営など
- ・ティーサービス………和室での抹茶や煎茶のサービス
- ・環境美化………花の提供、清掃、資源ゴミ回収など
- ・広報………勤務先や近所などへの当館事業の広報、宣伝
- ・おはなしのへや………館内外での読み聞かせや紙芝居実演など

② ボランティア活動状況

◇ 登録者数220名(令和3年度末現在)

◇ 活動実績

活動分野	活動実績
ミュージアムショップの会	毎月1回の定例会の開催、商品の棚卸し・整理した。土屋文明の初期歌集『ふゆくさ』と『往還集』の合冊本を刊行した。
ティーサービス	※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止。
環境美化	駐車場等の草刈りを行った。文学館前バス停に、菊を提供するとともに水やり等の世話をを行った。
広報	企画展のチラシ等を配布して広報活動を行った。
おはなしのへや	夏休み期間中(8月1日～8月23日の9日間)、2階研修室(又は和室)で、1日1回または2回、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、民話の語り等を行った。実演団体:10 団体、観覧者数:111名

(9) 自主学習会

原則、年10回開催のところ新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月から6月は中止及び休講。

学習会名	講師名	受講者数
県立文学館 短歌の会	田村 ^{はじめ} 元氏	20名
県立文学館 短歌相互学習会	(歌人、『NHK 短歌』誌上添削教室添削者、「りとむ」所属)	19名
県立文学館 はじめての俳句	鈴木 ^{しょうわ} 章和氏 (俳人、NHK学園俳句専任講師・NHK ラジオ「文芸選評」選者、「翡翠(かわせみ)」主宰)	11名
県立文学館 俳句学習会		12名
県立文学館 章和俳句会		13名
県立文学館 翠句会		9名

県立文学館 詩の講座	関口将夫氏 (詩人、画家)	9名
県立文学館 絵手紙の会	福田登美恵氏 (日本絵手紙協会公認講師)	22名
県立文学館 古典学習会 1. 古今和歌集	吉永哲郎氏 源氏物語を読む「蘇芳(すおう)の会」主宰	—
県立文学館 古典学習会 2. 源氏物語	※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため本年度休講	—
合計		115名

(10) 広報活動

① 企画展ポスター・チラシ配布

年4回開催する企画展に合わせて、開催の3週間前に関係機関に配布して広報した。

(配布先)

県内小・中・高等学校・特別支援学校、県内教育機関、県内外博物館・文学館、県内図書館・公民館、県内報道機関、県内観光施設等

② 「施設概要・令和3年度事業案内」配布

年度末に配布して、翌年度の企画展や各種イベント等の事業について広報した。

(配布先)

県内小・中・高等学校・特別支援学校、県内教育機関、県内外博物館・文学館、県内図書館・公民館、県内報道機関、県内観光施設等

③ 県広報課関係広報

県広報課が所管する広報媒体を通じて、企画展や各種イベント情報について広報した。

(広報課関係広報媒体)

ぐんまちゃんの掲示板、ぐんま広報、グラフぐんま、ぐんま情報トッピング、メールマガジン「ぐん！GUNMA」など

④ 県内報道機関へのPR

県内報道機関に、企画展や講演会などのイベント情報を提供・取材してもらい、新聞等の活字メディアやテレビ・ラジオ等の電波媒体で報道してもらうよう努めた。

(主な報道機関等)

上毛新聞社(ぱれっと編集室、タカタイ編集室含む)、朝日新聞社前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、東京新聞前橋支局、産経新聞社前橋支局、日本経済新聞社、朝日ぐんま、群馬よみうり、群馬東部よみうり、桐生タイムス、日本放送協会前橋放送局、群馬テレビ、エフエム GUNMA、ラジオ高崎等

⑤ 広報誌掲載

タウン情報誌、月刊情報誌、短歌関連雑誌等の広報誌に情報提供した。

⑥ 学校団体等利用促進広報

・近隣市町村の幼稚園、保育園、小学校に、なつやすみイベントチラシ等を配布した。

⑦ 刊行物の配布

企画展図録等について、県内教育機関、県内外博物館・文学館、県内図書館等に配布した。

⑧ 文学館ホームページ

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館や再開、館の感染対策等を告知
- ・企画展、講演会、文学講座などイベント情報を掲載
- ・文学資料の閲覧・検索サービス
- ・家で楽しみながら学べるコンテンツを提供(ぬりえ、まちがいさがし、ペーパークラフト)
- ・北海道博物館の呼びかけによる「おうちミュージアム」への参加
- ・「特別館長日記」の開設
- ・「土屋文明著作目録(明治期・大正期)」「土屋文明年譜(明治期・大正期)」PDF 公開
- ・絲山秋子展記念講演会「和解について」講演録 PDF 公開

⑨ 公式 Instagram

- ・臨時休館のお知らせ
- ・文明歌碑とクラリネット演奏動画
- ・三十六歌人×星野源「うちで踊ろう」ほか三十六歌人の紹介動画
- ・「企画展 the movie」など企画展紹介動画
- ・土屋文明の短歌紹介
- ・閲覧室利用再開のお知らせ
- ・企画展関連商品の紹介
- ・記念短歌募集企画メロディー賞受賞作品の動画
- ・投稿件数：76件(企画展42件、常設展10件、特別展示2件、資料・書籍2件、館一般21件)

・フォロワー数:215人(令和3年3月31日現在)

⑩ 公式 Twitter

- ・臨時休館のお知らせや再開等の告知
- ・企画展、講演会等の行事予定や参加募集の呼びかけ
- ・記念日や時候にあわせて「今日の土屋文明短歌」
- ・ゆかりの文学者の命日・誕生日情報など
- ・投稿件数:370件(企画展203件、常設展54件、特別展9件、資料・書籍10件、館一般93件)
- ・フォロワー数:464人(令和3年3月31日現在)

	インプレッション (閲覧)	エンゲージメント(反応)				トップTweet
		エンゲージメント 率	リンクのク リック	リツイート	いいね	
4月	101,523	1.80%	249	237	411	4/24企画展 the movie第2回「山崎斌と牧水、藤村」(6,194)
5月	92,679	1.90%	205	310	599	5/11朔太郎忌(15,762)
6月	74,714	2.40%	96	231	673	6/19桜桃忌(8,352)
7月	80,467	2.10%	176	244	506	7/24河童忌(6,621)
8月	95,316	1.90%	161	283	614	8/1伊藤左千夫葬儀(9,803)
9月	62,140	2.00%	102	228	448	9/28松岡謙誕生日(8,082)
10月	52,097	2.20%	134	158	287	10/10若き日の土屋文明開催(11,841)
11月	109,419	2.30%	106	209	609	11/7横方智氏への引用(23,151)
12月	144,564	2.30%	359	231	703	12/4絲山秋子展詳細(30,676)
1月	154,525	1.90%	223	218	822	1/15絲山明子展まであと1日!(11,215)
2月	126,475	2.00%	264	246	775	2/28絲山秋子展 開催中(15,137)
3月	133,504	1.90%	606	241	643	3/13橋川友佳子氏紹介。絲山展あと2日。(16,516)
合計	1,227,423		2,681	2,836	7,090	

◇ 公式 Twitter リツイート&ご観覧ありがとうキャンペーン

企画展名	開催期間	利用者
第108回企画展「文学と、草木染と一山崎斌のころざしー」	5/27~7/31	10名
第110回企画展「絲山秋子展ー“土地”で生きる人々を描く」	1/16~3/14	23名

⑪ 群馬県公式 YouTube チャンネル tsulunos への動画投稿

- ・企画展 the movie「文学と、草木染と一山崎斌のころざしー」1~4
- ・企画展 the movie「展示解説(紙芝居がやって来たⅢ)」
- ・企画展 the movie「土屋文明生誕130年記念展没後30年開催中!!」
- ・永田和宏氏記念講演『戦後歌壇の牽引者:土屋文明』(2021年3月31日まで)
- ・絲山秋子氏ロングインタビュー「絲山秋子氏に聞きたい10の質問」

⑫ ロゴマークの作成

土屋文明生誕130年没後30年記念のロゴマークを作成した。



(11)刊行物の発行

種類	名称	規格	部数
図録	第108回企画展 「文学と、草木染と一山崎斌のころざしー」	A4判 8ページ	800部
	第109回企画展 土屋文明生誕130年没後30年記念展 「若き日の土屋文明ーあまた人々の恵みありー」	A4判 40ページ	1000部
	第110回企画展 「糸山秋子展ー“土地”で生きる人々を描く」	A4判 24ページ	700部
紀要	令和2年度 紀要「風」24号	A4判 78ページ	600部
チラシ・ポスター	第108回企画展 「文学と、草木染と一山崎斌のころざしー」	チラシ A4判(両面) ポスター B2判	45,000部 700部
	第109回企画展 土屋文明生誕130年没後30年記念展 「若き日の土屋文明ーあまた人々の恵みありー」	チラシ A3判二つ折り(両面) ポスター B2判	28,000部 700部
	第110回企画展 「糸山秋子展ー“土地”で生きる人々を描く」	チラシ A4判(両面) ポスター B2判	45,000部 700部
そ	施設概要・令和3年度事業案内	両観音折り	30,000部

※ 「紙芝居がやって来たⅢ」については急遽開催が決まったため自館作成のチラシ(A4判)、ポスターを使用

◇ 土屋文明合冊歌集『ふゆくさ+往還集』(ミュージアムショップの会)の刊行
土屋文明生誕130年没後30年記念事業として土屋文明の第1歌集『ふゆくさ』と第2歌集『往還集』を合冊、復刻した。

6 資料収集・調査研究

(1) 資料収集

本年度の収蔵資料は、購入資料113点、寄贈資料694点、その他(複製)5点で、合計812点、収蔵資料合計 204,030 点となる。

(令和3年3月31日現在)

資料区分	購入	寄贈	その他(複製)	2年度合計	収蔵資料合計
特別資料	5	265	5	275	31,085
雑誌・図書	108	415	0	523	172,741
視聴覚資料	0	0	0	0	204
その他	0	14	0	14	—
2年度合計	113	694	5	812	
収蔵資料合計	47,023	155,504	1,493		204,030

※合計点数は登録作業済の点数。

◇ 主な購入資料

- ・歌幅1点「アララギ第二回安居会」寄せ書き
- ・書簡2通 島木赤彦書簡長塚節宛(折帖仕立)
- ・図書39点 『新校本宮澤賢治全集』
- ・図書1点 泉鏡花『草迷宮』

◇ 主な寄贈資料

- ・書簡210点 伊藤信吉書簡寺島珠雄宛
- ・詩稿等65点 伊藤信吉詩稿
- ・雑誌230点 俳誌『さいかち』
- ・雑誌44点 俳誌『朝虹』等
- ・図書28点 歌集(アララギ関係)等
- ・図書ほか103点 高柳重信句集等

(2) 資料の整理・保存管理

① 資料整理

収集した資料等について、調査、登録(資料保存のための装備)、画像データの磁気化(スキャニング・写真撮影を含む)などの作業を行った。

② 保存管理

◇ 施設燻蒸

虫菌害防止対策として、収蔵施設(収蔵庫・書庫)と展示施設(常設展示室・企画展示室)の燻蒸を隔年で実施している(年1回)。

今年度は、企画展示室の燻蒸を実施した。

◇ 資料燻蒸

新たに収蔵した資料については、館内燻蒸のときに合わせて実施した。

◇ 日常管理

- ・書庫、展示室の状況について、毎日(朝・夕)見回りして確認している。
- ・収蔵庫・書庫、展示室の温湿度計の計測記録について、週に1回確認している。
- ・常設、企画展示室に加湿器、及び除湿機を設置して温湿度を調整している。

◇ 資料修復

三菱財団の助成を受け「伝世尊寺定成筆『新古今和歌集』写本」1点、及び「伝世尊寺経朝筆『新古今和歌集』古筆切」1点の修理修復を行った。

(3)資料貸出

次の2件19点の資料について、借用の申請に基づき貸出を承認した。

貸出資料名(点数)	展覧会名	開催期間	展示会場(施設名等)
『浮かれ鴛鴦 民謡集』など書籍(8点)	夢よ、氷の火ともなれー佐藤惣之助生誕130年記念展ー	8/1～9/27	萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館
『早稲田文学』、江見水蔭白石実三宛など(11点)	江見水蔭ー無名の花袋を支えた小説家ー	10/12～12/17	田山花袋記念文学館
渡辺啓助書画額(1点)	渡辺啓助顕彰展～渋川で暮らしたミステリー小説家～	3/8～3/26	渋川市教育委員会

※ 移動展の資料貸出を除く

7 利用案内・位置図

(1)休館日

- ① 火曜日(祝日の場合は翌日、4月29日から5月5日までの間及び8月15日を含む週を除く)
- ② 年末年始(12月29日から翌年1月3日まで)
- ③ 燻蒸のための臨時休館日(9月1日～9月10日)
- ④ 企画展準備、撤去のための臨時休館日(前後2日間程度)

(2)開館時間

午前9時30分から午後5時まで(観覧受付は午後4時30分まで)

※ ただし、第1～第3研修室及び和室は、午前9時30分から午後9時まで

※ 本年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、館内消毒のため午後0時30分から1時30分まで閉館した(5月27日～3月9日)。

(3)企画展観覧料

- ・一般410円、大高生200円(常設展のみ 一般200円、大高生100円)
- ・20名以上の団体は2割引。
- ・中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方と介護者1名、県民の日(10月28日)観覧者は無料。

(4)施設利用料

文学関係行事等に利用できる。

区 分	午前	午後	夜間	1日	
	9:30～12:30	13:00～17:00	17:00～21:00	9:30～21:00	
施	企画展示室	2,640円	3,550円	—	6,190円
	第1研修室	1,160円	1,540円	1,540円	4,240円
	第2研修室	1,160円	1,540円	1,540円	4,240円
	第3研修室	1,160円	1,540円	1,540円	4,240円
設	和室	610円	830円	830円	2,270円

※ 付属設備を使用する場合は、別に利用料が必要。

(5)位置図



※ 公共交通機関

① バスを利用される場合

- ・高崎駅西口2番乗り場から群馬バス「しんとう温泉・^{しんとうむら}榛東村役場」行→「^{ほどた}保渡田」下車
- ・前橋駅北口5番乗り場から関越交通バス「土屋文明文学館」行→終点下車

② タクシーを利用される場合

- ・高崎駅西口から約20分
- ・高崎問屋町駅西口から約15分
- ・新前橋駅西口から約15分